

様式1 令和5年度 山梨県立笛吹高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成
-----------	--

山梨県立笛吹高等学校校長 廣瀬 志保

本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。
	2. 日々の教育活動をおとして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。
	3. 生徒個々の希望と適性にに応じた進路の実現をはかる。
	4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。
	5. 教職員の多忙化改善に向けた取り組みを行う。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割未満)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価(令和2月1日現在)		
番号	評価項目	本年度の重点目標 具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果		
				達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	生徒への教育の質を保障する(生徒理解に努めながら学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫)	◎学び続ける教員による授業の充実を図る ・山梨スタンダードに基づいた授業実践により「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善に取り組む。(ICTの利活用を行う) ・相互事業参観や授業研究、教員研修を通じて、教員の授業力向上に努める。 ・やまなし教員育成指標に基づき常に学び続けることを意識し、自己研鑽に努める。 ◎生徒の家庭学習の推進を図る ・生徒が自己の生活を見つめ、主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、ICT学習支援ツールと今未来手帳の活用に取り組む。 ◎個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る ・教科横断型STEAM型の新教科を設定し、生徒に言語能力、問題発見・解決能力など学習の基盤となる資質・能力を育成することを目指す。 ・4学科の特徴を生かし、生徒一人一人に応じた学びが実現できる教科やカリキュラム開発を行う。	・授業アンケート ・ICTの活用状況 ・Classiや今未来手帳の活用状況 ・相互授業参観の状況 ・カリキュラムデザインの進捗状況			
2	生徒が安心安全な学校生活を送ることができる学習環境をつくる(良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫)	◎いじめの未然防止に努める ・いじめ調査に併せ、生活実態の把握に努め、予防的な指導の充実を図る。 ◎担任、副担任の連携・協力によるホームルーム指導を実施するとともに学校全体で情報共有を図り、組織としての適切な対応に努める ・生徒一人一人が抱える課題に着目し、個性を認め、個別の発達を支援するホームルーム活動を行う。 ・学校全体で情報を共有する体制を整備し、組織的な対応を行う。 ◎生徒の安心安全な学校生活を確保する ・授業、クラブ活動、登下校など学校生活全般における生徒の安心安全を確保する。	・教職員間の情報共有 ・保護者との情報共有と情報発信 ・登校指導の実施 ・学年・学科集会など様々な場面での指導 ・学校生活の充実感 ・教育相談の充実 ・危機管理の徹底			
3	進路指導を充実させ、生徒の進路実現を図る(各々の適性にに応じた進路を実現)	◎習熟クラス、少人数授業等編成目標に応じた学習指導を行い、進路実現を図る ◎生徒、保護者の意向を調査・把握し、進路希望を実現するための具体的な手立てを講じる ・生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。 ◎課外授業や課外指導の充実を図る ・土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。 ◎進路行事や総合的な探究の時間等を通してキャリア教育の体系化を図る ・「総合的な探究の時間」「課題研究」「産業社会と人間」での探究活動を通して、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。	・相互授業参観の状況 ・指導と評価の一体化 ・二者懇談・三者懇談の実施状況 ・各種便り、HP等の充実 ・多様な学習機会の提供 ・計画的な進路ガイダンスの実施 ・地域社会への関心度			
4	これからの時代を生きる生徒に必要な資質・能力を育成する。(具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協働しながら課題解決する力を育む)	◎生徒が地域の課題発見・解決に主体的に関わり、社会参画できる実践的な活動を行い成就感や自己肯定感を高める ◎学校行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する	・総合的な探究の時間の充実 ・学校連得協議会との連携による活動 ・生徒会活動の充実 ・広報活動の充実 ・笛吹市との包括連携による活動			
5	教職員の多忙化改善に向けた取り組みを行う	◎業務の平準化を図る ・会議等の効率化、行事・分掌の見直しを行う。 ◎部活指導の適正化を推進する ・年間指導計画に基づく、適正な部活指導を実践する。	・会議や行事の精選 ・部活動の実施状況と活性化			

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月15日)	
評価	意見・要望等

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。